平等＝みんなが幸せ？

RED★STAR　木原　池田　小野

　皆さんは、今、私たちが住んでいるこの世界は平等だと思いますか？私たちはそうは思いません。なぜなら、今この世界には、男女の不平等や教育の不平等など、様々な不平等問題が起こっているからです。

そもそも平等とは何でしょうか。平等の良いところ、悪いところは何でしょうか。

わかりやすい例を紹介します。

（これはある風刺画をもとにしたものです。）

イヌ、サル、ゾウ、鳥、魚、がいます。その5種類の生き物に試験をします。試験官は、平等な試験を行うために、「目の前にある木に登れ」と言いました。

これは有名な理論物理学者、アインシュタインの次のような言葉がもとになったものです。

『人は、みな才能を持っている。しかし、魚を木登りの才能がないと評価したら、魚は自分のことを無能だと思って、一生過ごすことになるだろう。』

皆さんはこれを聞いてどう思いましたか？試験の内容は平等といえますが、それぞれの得意不得意を考えたら、どう考えても不平等ですね。確かに、みんな平等な試験を受けなければならないなら、同じ課題を与えなければなりません。しかし、どう考えてもサルには有利だし、魚にとっては不利ですよね。

今、『平等』について説明しました。この話を知って平等に不信感を抱いた人も多いのではないでしょうか。しかし、平等に悪いところがあるからと言って、むやみに平等を避けようとすると、もっとひどいことがおこる例もあります。

その例の一つとして、特に深刻なのが貧困問題です。そして今回私たちは、その貧困問題について考えてみました。まず、貧困に苦しむ人は世界にどれぐらいいるのでしょうか。

（※貧困・・・生活していくための必要最低限の収入が得られないこと。）

今世界では、約10人に1人が極度の貧困状態にいます。その人たちは一日あたり1.9ドル（約209円）以下で生活しています。それに対して私たちは、一日何円で生活していると思いますか？

参考になるように、私たちの塾の先生に朝ごはんの内容を聞いてみました。

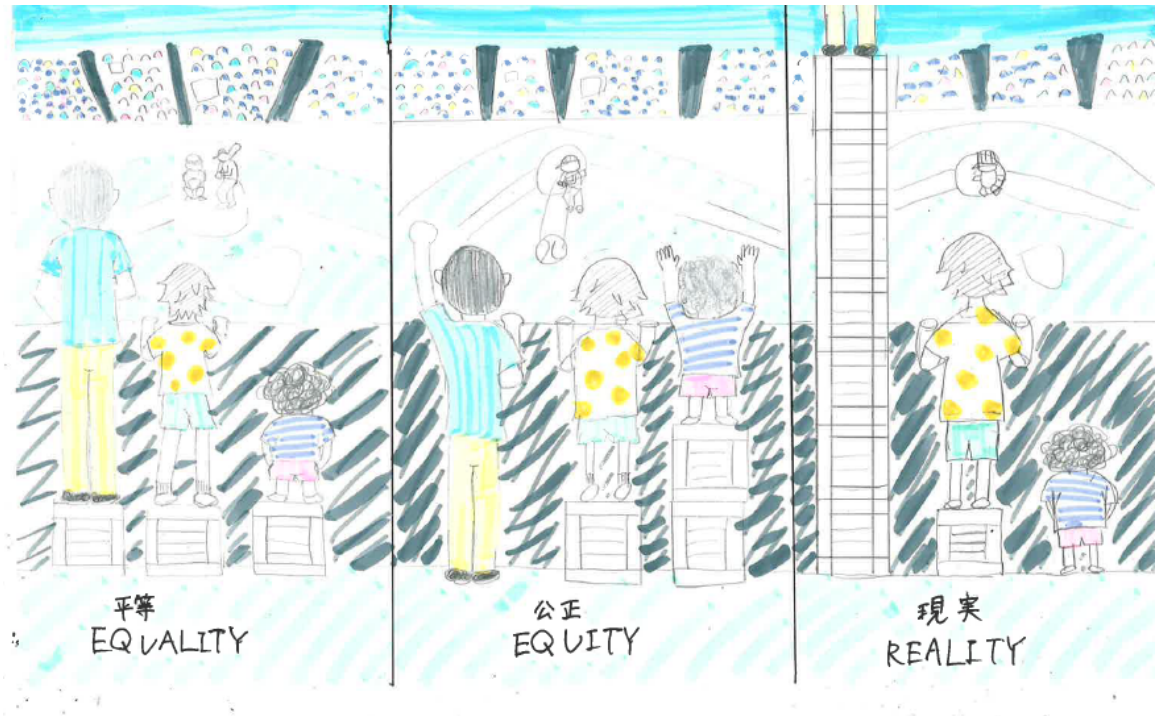
A先生→食パン1枚、リンゴ、コーヒー,,,（約200円）

N先生→フレンチトースト、ベーコンエッグ、ヨーグルト,,,（約250円）

１食食べるだけでも209円は越していると思います。

そう考えると貧困状態だとまともにごはんも食べられません。これは餓死や短命につながります。

下の絵を見てください。



野球観戦をしている人たちの絵が3つ並んでいます。

これを私たちは、貧困な世界にたとえてみました。身長が高い人が、裕福な人、身長が低くなるにつれて、貧困になるとします。そして踏み台をお金だとしてその人達に渡せるとすると、みなさんはどのように渡しますか？

恐らく、③のように渡す！というひとはいないでしょう。しかし、この絵こそが「REALITY」、現実です。裕福な人にお金は渡ってしまい、貧しい人にお金は渡っていません。これを皆さんは①、②のどちらに変えていきたいと思いますか？

私たちは実際に私たちの塾、学校の先生方１４名にインタビューしてみました。すると、①を目指していくべきだという人が2人、②を目指していくべきだという人が12人でした。①は背の低い人も、高い人も同じ数の踏み台を使用しています。最初の方にも述べた通り、極度の貧困レベルまで達してしまうと、命にまで影響が出てしまいます。

そうなると、「じゃあ②がいいんだ！」と思ってしまいます。インタビューで②を選んだ人に、理由を聞いてみると「身長が低い人が可哀想。」とおっしゃる先生方がほとんどでした。でも、本

当にそれが正しいのでしょうか。きっと②を選んだ先生方は身長が低い人の目線で考えたのではないかと思います。しかし、身長の高い人の目線で考えるとどうでしょうか。お金持ちになるにもそれなりの努力が必要です。「努力に見合うお金をもらって何が悪い」、そうきっと思ってしまうでしょう。確かに、貧困な状態になってしまうのは『環境のせい』というだけではなく、『その人がお金をもらうにあたる努力をしてこなかったから』とも考えられます。毎日頑張ってお金を稼いでいる人はお金がもらえず、その分を頑張っていない人がもらう、、、「そんなのおかしい！」そう思うでしょう。

どちらか一方を犠牲にしないといけない世界。それは本当に平和な、幸せな世界でしょうか。

今まで私たちは、『どちらを犠牲にするか』ということを考えていました。しかし、私たちがこれから考えていかなければならないのは、『どちらも犠牲にならないためにはどうするか』ということだと思います。

私たち3人が考えたどちらも犠牲にならない方法として「必要な時に必要なぶんだけ踏み台を貸してあげる」という方法があります。現実の世界を表している③の絵を見てみると、身長の高い人ははみ出てしまうくらいの踏み台を使用しています。この分の踏み台を野球観戦の時だけ貸してあげて、②のような状態にする。そして野球観戦が終わっ０－＠^たら、踏み台を返してあげる。これが現実で何を表しているかというと、貧しい人が、お金に困ったときに、必要な分だけ貸してもらって返せるようになったとき、貸してもらった分だけ返すということです。裕福な人は、生きていけないほど貧乏な人のために少しだけでも、お金を貸してあげようという優しさ。貧しい人は、少しでも早くお金を返そうとする努力。

その互いへの思いやりを多くの人が持つことで、より良い世界を目指していけると思います。

貧困な人たちにお金を貸す、というのは今の私たちにとって単独でするのは難しいかもしれません。しかし、日ごろよく見かける募金。それに100円だけでもいいんです。たとえ少しでも、誰かの役に立っていることは間違いありません。あなたのその温かい思いが誰かの命を救うのです。

ですから、皆さんがこの記事を読んで、貧困の厳しさを知り、解決のために少しでもなにか考えてくださったり、意識が変わってくだされば幸いです。そして、思いやりの力で、貧困問題だけでなく、ほかの不平等問題もなくなっていくことを願っています。